

学校生活の 思い出

昭和41年卒

丸山 美栄子
(旧姓 野口)

編入試験を受けた昭和
三十七年九月から、三田高
校に通いました。職場は学
校に隣接していた済生会中
央病院でしたので、通学は
楽でした。しかし三文替勤
務の為欠席する日があり、
数学の単位を取りたくて勤

務の休憩時間に校門をくぐ
った事もありました。九州
の田舎から出て来た私にと
って学校は学ぶ所、友人と
語り合う所、そして都会生
活の始まりの場でもありま
した。珍しかった石炭ス
トープ、生活指導の先生が
登校時には校門に立ち、
又帰りに喫茶店等立ち寄り
生徒がいなか田町駅まで
見て廻られていたと聞きま
す。担任は尾本先生、高井
先生いつも笑顔で生徒に接
しておられたのを思い出し
ます。

楽しかった体育祭の後の
フォークダンス、日本史の
先生と松戸に発掘調査の手
伝いに行き土器のかけらを
沢山見つけ喜んでいると
そこはゴミ捨て場で在ろうと
言われがっかりした事、学
校給食等々、夜間に学ぶ私
達は恵まれた環境にあつた
と今でもつくづく思いま
す。又田舎育ちの私に、友
人はいろいろな都会生活の
刺激を与えてくれました。
初めて飲むトマトジュース
は塩を少し入れると飲みや
すいとか、カウンターに座



現在の済生会病院

り注文して食べた握り寿司
の味は忘れられません。芝
公園の近くのボーリング場
で、榛名湖でのスケート、
尾瀬、大菩薩峠の山登り、
銀座へ行ったりと全てが初
めての体験ばかりでした。
その頃は都電が走り、赤羽
橋から渋谷、六本木、銀座、
上野へと便利に安く行く事
が出来、停留所の名称で東
京の地名を覚える事が出来
ました。原稿を依頼され
四十年ぶりに取り出したア
ルバムの中には、仕事に、
遊びにそして学びに、疲れ
を知らず希望に満ちていた
であろうあの頃を一気に甦
らせてくれました。卒業後
は上の資格を取る為、進学、
就職、結婚、育児をしながら



現在の慶応仲通り（駅前から入って左に曲がった所）

ら仕事を続け、自分の定年
は自分でと思い少し早めに
退職しこの四年間は家で過
ごしております。定時制高
校が無くなるのは残念です
が時代の流れでしょうが、
歴史ある三田高校で学び、
先生方の計り知れない思い
を感じながら、友人と共に
過ごした四年間は、常に学
び続けることの大切さを教
えられたような気がしま
す。一日の仕事を終えて、
東京タワーを見上げながら
校庭のライトに照らされて
通った学校のある三田は私
の青春時代の故郷です。

